

みんなとともに笑顔いっぱい — 「学びあい」「認めあい」「高めあい」 —



みんなとともに



予定通りでしたら、きょうは「授業参観」と「PTA総会」の日でした。子どもたちの様子をご覧いただく機会を設けることができなかつたこと、保護者の皆様と近しく話をする機会を設けることができなかつたことを大変申し訳なく思います。一方で“春めいた空気感”となってきました。この“閉塞感”もいつかは抜け出す日がくることでしょう。早くマスクを取った子どもたちの笑顔を見たいものです。



令和4年4月から「あおぞら学級」ができます。

令和4年4月から本校に「自閉症・情緒障害特別支援学級」が新設されることになりました。常々「設置の必要性」を感じていましたが、「基準」を満たさないと設置は認められません。そのような中で、関係する皆様のご理解とご協力を得て新設することができましたことを、大変ありがたく思っています。

なお、「自閉症・情緒障害特別支援学級」の「校内での呼び名」として、「あおぞら学級」とすることにしました。このことへのご理解もお願いいたします。

【本校の「最適な学びの場」の提供】

「特別支援学級」 少人数による学びの場で、個に合わせた専門的な教育的支援を受けることができる。

□ 知的障害特別支援学級

「わかば学級」

- ・ その子の“知的なレベル”に合わせた指導を受けることができる。

□ 自閉症・情緒障害特別支援学級

「あおぞら学級」

- ・ その子の“発達のレベル”に合わせた指導を受けることができる。

← 新設でこの部分が充実します。

「通級指導教室」 障がいに合わせて教育的支援のみを、他校の通級指導教室で受けることができる。

- 言語障害通級指導教室
- 自閉症通級指導教室
- ADHD/LD 通級指導教室

「通常学級」

同年齢集団の中で、同一の学習内容を、一斉指導で受けることを基本とする。

* 「特別支援教育」を上手に利用することは、保護者の方の当然の「権利」であると考えます。と同時に、子どもにとっては「分かる・できる」ことが実感でき、学校生活の充実につながります。

「あおぞら学級」と名付けた理由

○ 「清明」につながる「さわやか」で「あかるい」イメージである。

○ その学級に通う子どもたちの「希望溢れる未来」につながる名である。

※ あまり強い意味は持たせず、言葉の持つ「響き」や「イメージ」を重視しました。また、すでにある「わかば学級」という名と似た感じにならないことも考慮しました。

【校長のつぶやき】 その111 「和不同」

私の目にしか触れないのだが、校長室に「和不同」の額が掲げられている。「和して同ぜず」と読む。創立記念日の全校集会で話をするために調べていて知ったのだが、この字を書いたのは、当時の東京大学の学長である。「第五小学校」から「清明小学校」に改称するときに、「教育者で立派な先生」ということで頼んだらしい。「拙筆だから書けない」と断られながらも、「清明小学校にだけ特別に書く」との返事を得て、新築した体育館に掲げられた。お土産として持っていった「立子山名産のしみ豆腐」が効果を発揮したようである。

【校長のつぶやき】 その112 「カムカム」

最近の楽しみは「カムカムエヴリバディ」である。「朝ドラ」を録画しておいて、夜に見る。「親子三代の物語」になっているが、「るい」が親になり、親として悩みながら成長していくところも興味深い。そして、私が今はまっているのは「回転焼き」である。福島では「大判焼き」「今川焼き」の呼び名が一般的だろう。「大月」の場面がでると、無性に食べたくなる。かくして、週末は「回転焼き」購入の列に並ぶことになる。私と同様に感化されやすい人は、たくさんいるようである。（「餡の甘さ」と「焼き具合」に個性がありますネ!）